

# 2017年度第2四半期 決算説明会

2017年10月31日  
株式会社村田製作所



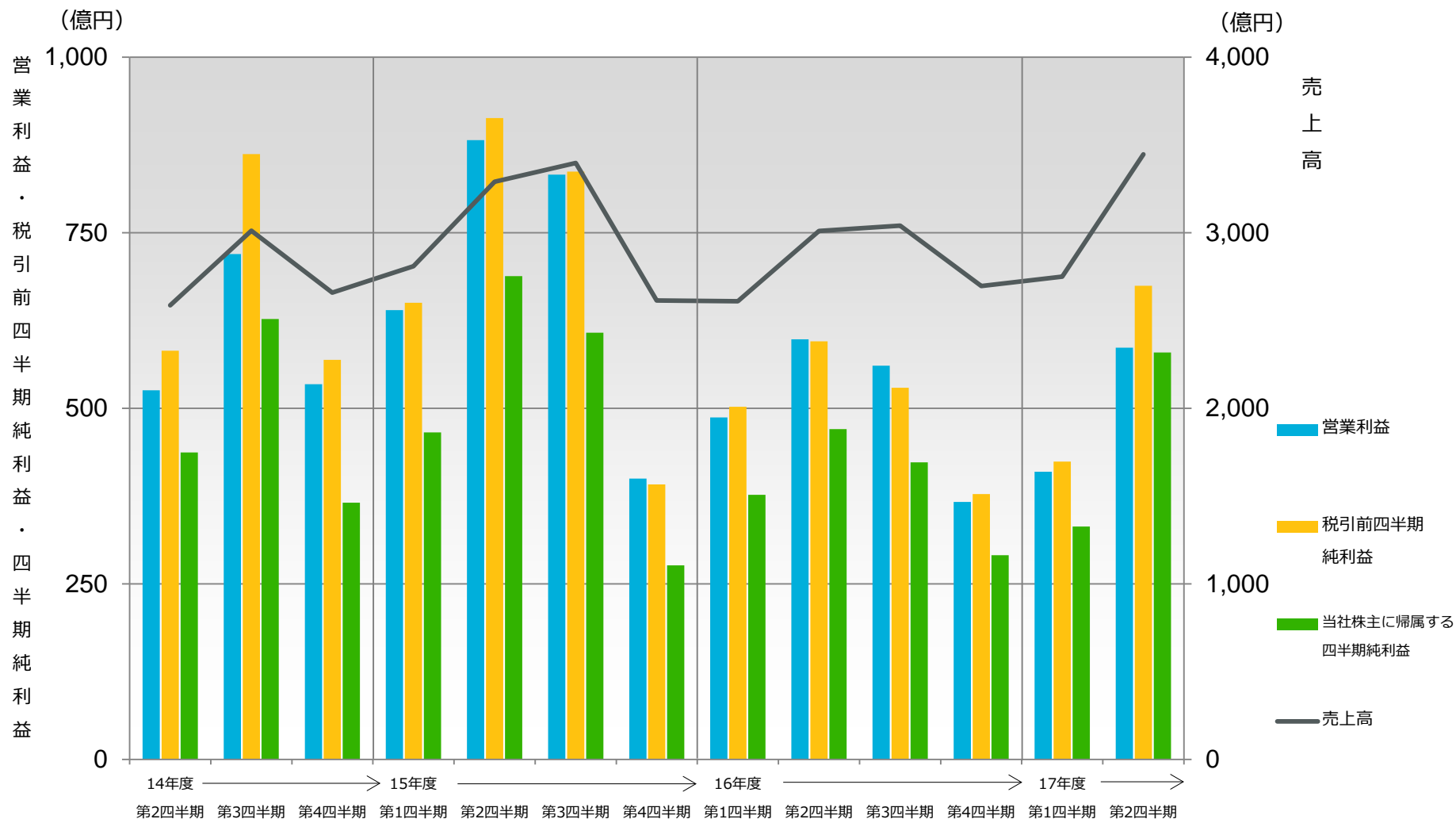
# 1. 2017年度 第2四半期業績概要

2017年7月～2017年9月  
第2四半期連結会計期間

- 当第2四半期の売上高は、通信において新モデル向けの取り込みの後ろ倒しの影響はあったものの、カーエレ、P C、A V向けは好調に推移し、計画を達成。
- 上期の売上高は、通信で中国スマートフォンの生産調整の回復の遅れはあったものの、カーエレ、P C、A V向けなど幅広い用途でコンデンサなどのコンポーネント部品を中心に電子部品需要が拡大し、前年同期比10%の増加。
- 上期の営業利益は、新製品の生産能力増強に向けた減価償却費や投資関連費用の増加により、前年同期比8%の減少。営業利益率は同比3.2ポイント低下の16.1%。

- 通期の業績予想は、新製品の不良率改善の進捗遅れによる製造費用の増加に加え、収益性の高い製品の減少に伴う品種構成悪化、投資関連費用の増加などを見込み業績予想を修正。営業利益1,700億円を見込む。

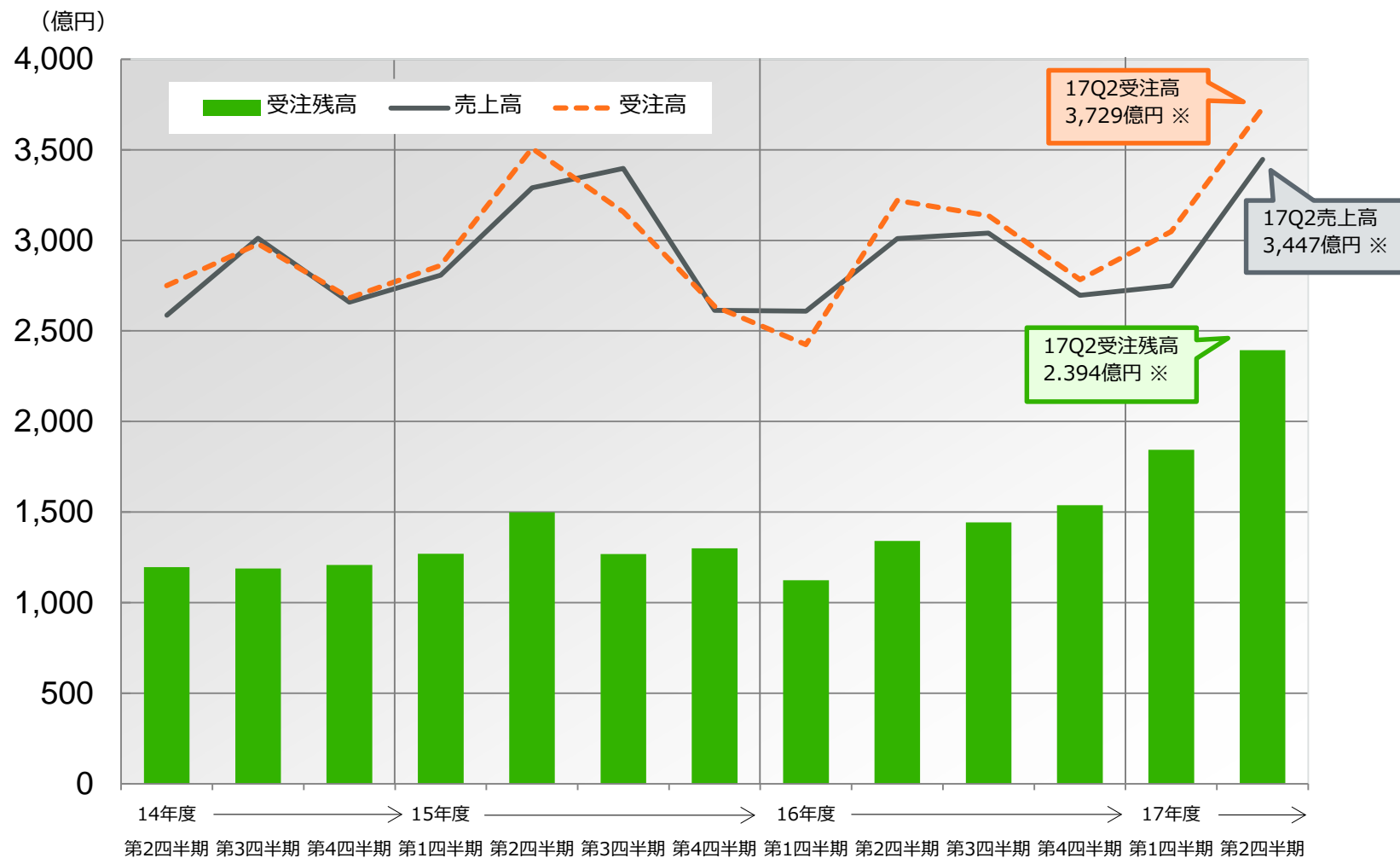
# 業績推移（四半期）



# 業績概況

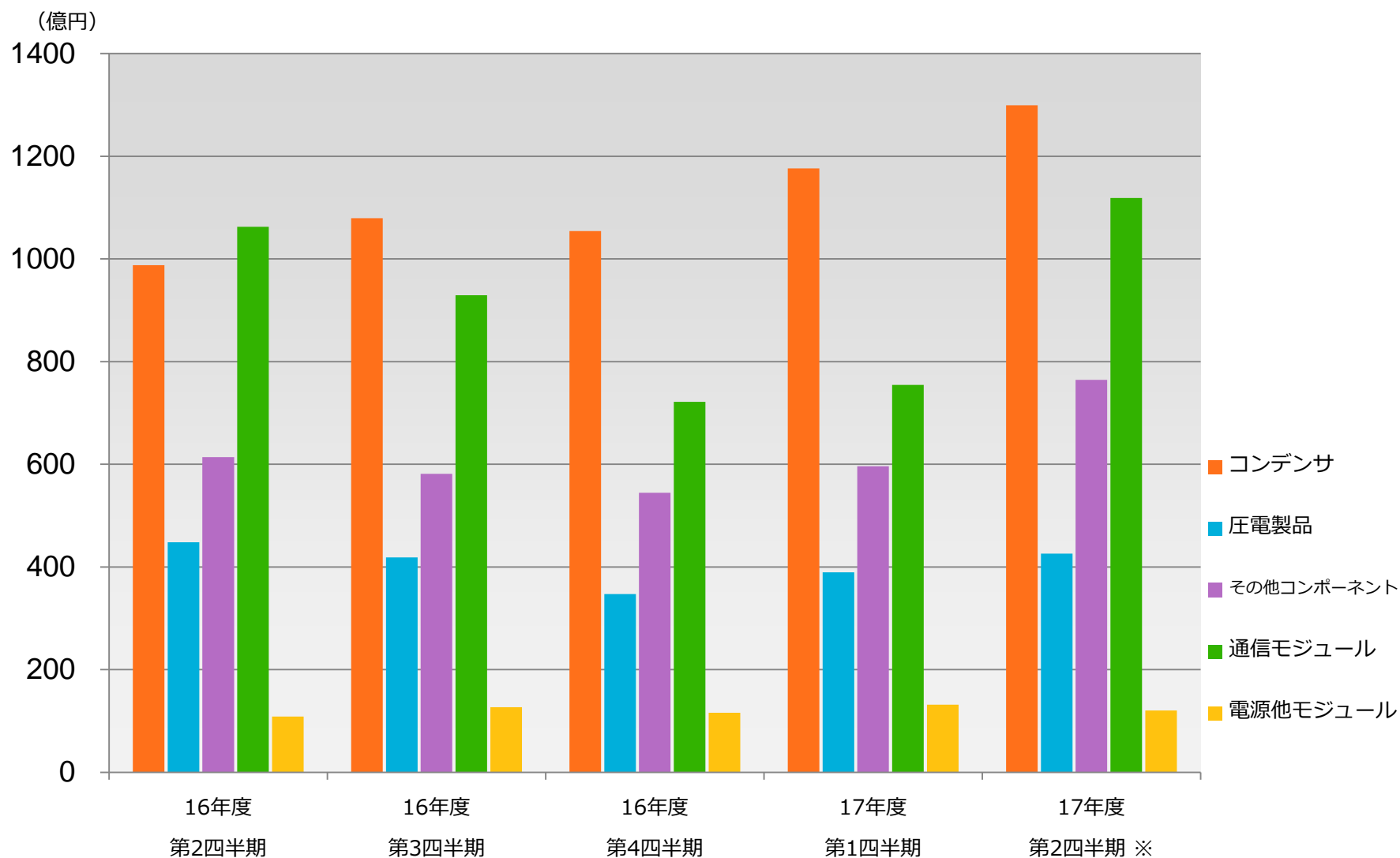
	2016年度		2017年度						直前四半期比		前年同期比	
	上半期		第1四半期		第2四半期		上半期		17Q2/17Q1		17年上期/16年上期	
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
売上高	5,619	100.0	2,750	100.0	3,447	100.0	6,196	100.0	+697	+25.3	+577	+10.3
営業利益	1,085	19.3	409	14.9	586	17.0	996	16.1	+177	+43.2	▲89	▲8.2
税引前四半期純利益	1,097	19.5	424	15.4	674	19.6	1,098	17.7	+250	+59.1	+1	+0.1
当社株主に帰属する 四半期純利益	847	15.1	331	12.1	579	16.8	911	14.7	+248	+74.8	+64	+7.5
為替 (円/USD)	105.35		111.1		111.04		111.07					

# 売上・受注・注残推移（四半期）



※ ソニー株式会社より譲渡された電池事業の売上高・受注高・受注残高を含んでおります

# 製品別受注高推移



※ ソニー株式会社より譲渡された電池事業の受注高は2017年度第2四半期より「その他コンポーネント」に含んでおります



# 製品別売上高

	2016年度		2017年度				直前四半期比		前年同期比	
	上半期		第1四半期	第2四半期	上半期		17Q2/17Q1		17年上期/16年上期	
	(億円)	(%)	(億円)	(億円)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
コンデンサ	1,774	31.7	963	1,127	2,090	33.8	+164	+17.0	+316	+17.8
圧電製品	892	15.9	375	410	785	12.7	+35	+9.3	▲106	▲11.9
その他コンポーネント	1,101	19.6	546	730	1,277	20.7	+184	+33.6	+176	+16.0
通信モジュール	1,612	28.8	737	1,046	1,783	28.8	+309	+41.9	+172	+10.7
電源他モジュール	226	4.0	121	125	246	4.0	+4	+3.5	+20	+8.9
製品売上高計	5,604	100.0	2,743	3,439	6,182	100.0	+696	+25.4	+578	+10.3

# 製品別売上高概況

[2016年度上半期→2017年度上半期]

<p>コンデンサ (前年同期比+17.8%)</p>	<p>○<b>チップ積層セラミックコンデンサ (MLCC)</b> カーエレクトロニクス向け、PC向け、AV機器向けなど幅広い用途で好調に推移し、大幅に増加</p>
<p>圧電製品 (前年同期比▲11.9%)</p>	<p>▲<b>表面波フィルタ</b> 中国スマートフォンの在庫調整により、大幅に減少</p>
<p>その他コンポーネント (前年同期比+16.0%)</p>	<p>○<b>コイル</b> スマートフォン向け、EDP向けで増加</p> <p>○<b>EMI除去フィルタ</b> カーエレクトロニクス向け、ゲーム機向けで増加</p> <p>○<b>リチウムイオン二次電池</b> 当期に取得が完了したため新たに売上高を計上</p>
<p>通信モジュール (前年同期比+10.7%)</p>	<p>○<b>近距離無線通信モジュール</b> ハイエンドスマートフォン、タブレットPC向けで弊社製品搭載モデルの生産量が増えたことにより増加</p> <p>○<b>樹脂多層基板</b> ハイエンドスマートフォン向けで採用数が増加</p> <p>▲<b>通信機器用モジュール</b> ハイエンドスマートフォン向けでのシェア低下により減少</p>
<p>電源他モジュール (前年同期比+8.9%)</p>	<p>○<b>電源</b> 産電機器向けで増加</p>

# 製品別売上高概況

[2017年度第1四半期→2017年度第2四半期]

<p>コンデンサ (直前四半期比+17.0%)</p>	<p>○<b>チップ積層セラミックコンデンサ (MLCC)</b> 小型品、小型大容量品がスマートフォン、PC向けなど幅広い用途で増加し、カーエレクトロニクス向けも堅調に推移</p>
<p>圧電製品 (直前四半期比+9.3%)</p>	<p>○<b>表面波フィルタ</b> 中国スマートフォンにおける在庫循環の改善を受けて緩やかに回復</p>
<p>その他コンポーネント (直前四半期比+33.6%)</p>	<p>○<b>コイル/EMI除去フィルタ</b> スマートフォン、EDP、カーエレクトロニクス向けが増加</p> <p>○<b>コネクタ</b> ハイエンドスマートフォン向けが好調</p> <p>○<b>リチウムイオン二次電池</b> 当期に取得完了したため新たに売上高を計上</p>
<p>通信モジュール (直前四半期比+41.9%)</p>	<p>○<b>近距離無線通信モジュール/樹脂多層基板/多層モジュール</b> ハイエンドスマートフォン向けで大きく伸長</p>
<p>電源他モジュール (直前四半期比+3.5%)</p>	<p>○<b>電源</b> 産電機器向けで増加</p>

# 用途別売上高

	2016年度		2017年度				直前四半期比		前年同期比	
	上半期		第1四半期	第2四半期	上半期		17Q2/17Q1		17年上期/16年上期	
	(億円)	(%)	(億円)	(億円)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
A V	226	4.0	137	172	309	5.0	+35	+25.4	+83	+36.9
通信	3,239	57.8	1,367	1,900	3,267	52.8	+533	+39.0	+27	+0.8
コンピュータ及び関連機器	790	14.1	464	519	983	15.9	+55	+11.9	+193	+24.4
カーエレクトロニクス	798	14.2	446	475	921	14.9	+30	+6.6	+124	+15.5
家電・その他	551	9.9	329	372	701	11.4	+43	+13.1	+150	+27.3
製品売上高計	5,604	100.0	2,743	3,439	6,182	100.0	+696	+25.4	+578	+10.3

(注) 当社推計値に基づいております

# 用途別売上高概況

[2016年度上半期→2017年度上半期]

<p>AV (前年同期比+36.9%)</p>	<p>○セットトップボックス、ゲーム機向けなどでコンデンサやコイル、EMI除去フィルタ、近距離無線通信モジュールが大幅に増加</p>
<p>通信 (前年同期比+0.8%)</p>	<p>○ハイエンドスマートフォン向けで近距離無線通信モジュール、樹脂多層基板、小型大容量コンデンサが増加</p> <p>○基地局向けで中高圧コンデンサが増加</p> <p>▲通信機器用モジュールがシェア低下により減少</p> <p>▲中国スマートフォン向けで表面波フィルタが在庫調整の影響により減少</p>
<p>コンピュータ及び関連機器 (前年同期比+24.4%)</p>	<p>○PC向けで近距離無線通信モジュールや小型大容量コンデンサが増加</p> <p>▲HDD向けでショックセンサ、アクチュエータが減少</p>
<p>カーエレクトロニクス (前年同期比+15.5%)</p>	<p>○電装化の進展により車載用コンデンサが大幅に増加</p> <p>○カーナビ向けで車載用近距離無線通信モジュールが大幅に増加</p>

(注) 当社推計値に基づいております

# 用途別売上高概況

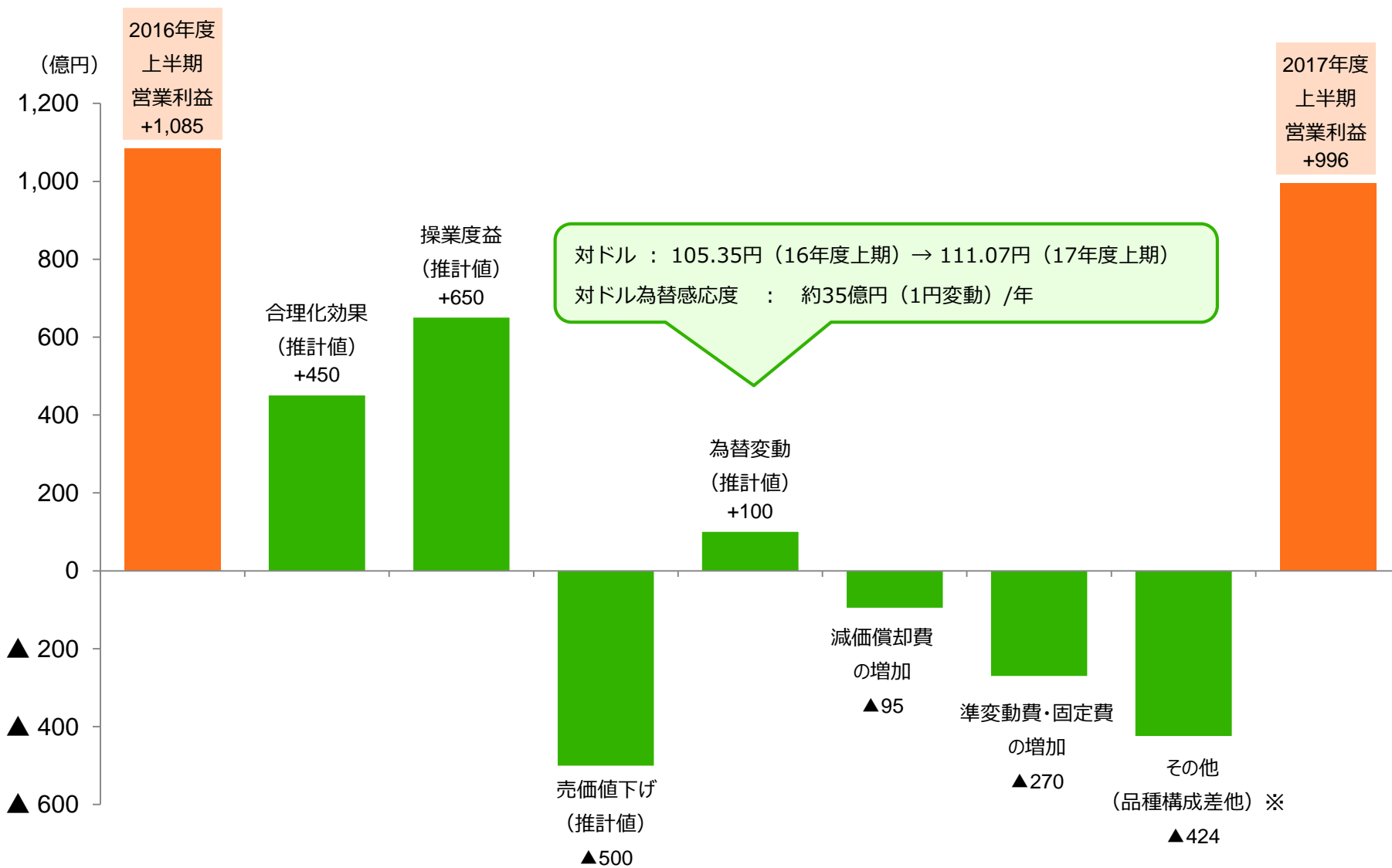
[2017年度第1四半期→2017年度第2四半期]

<p>AV (直前四半期比+25.4%)</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>○コンデンサ、コイル、EMI除去フィルタがゲーム機向けで大幅に増加</li><li>○セットトップボックス向けで近距離無線通信モジュールが増加</li></ul>
<p>通信 (直前四半期比+39.0%)</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>○スマートフォンの新モデル向けでコンデンサ、近距離無線通信モジュール、樹脂多層基板、コイルなど幅広い製品が大きく伸長</li><li>○中国スマートフォン向けで表面波フィルタが在庫循環の改善により増加</li></ul>
<p>コンピュータ及び関連機器 (直前四半期比+11.9%)</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>○ノートPC、タブレットPC向けでコンデンサ、近距離無線通信モジュールが増加</li><li>○サーバー向けでコンデンサが好調</li></ul>
<p>カーエレクトロニクス (直前四半期比+6.6%)</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>○電装化の進展により車載用コンデンサ、EMI除去フィルタが好調</li><li>○カーナビ向けで車載用近距離無線通信モジュールが増加</li></ul>

(注) 当社推計値に基づいております

# 利益変動要因

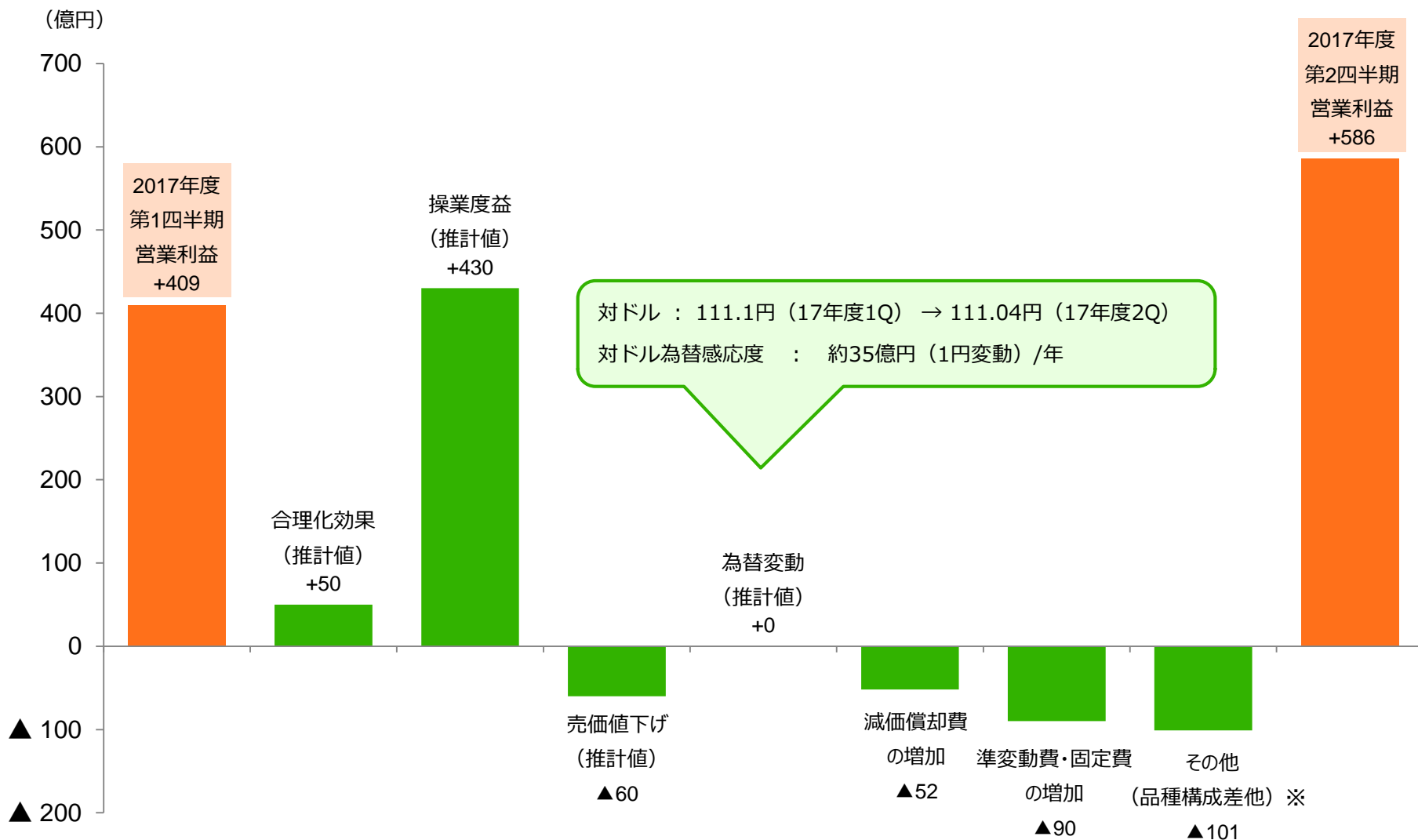
[2016年度上半期→2017年度上半期]



※ ソニー株式会社より譲渡された電池事業の利益変動要因はその他 (品種構成差他) にて表記

# 利益変動要因

[2017年度第1四半期→2017年度第2四半期]



※ ソニー株式会社より譲渡された電池事業の利益変動要因はその他 (品種構成差他) にて表記



## 2. 2017年度 業績予想

(2017年4月～2018年3月)

# 部品需要予測（通期／通信）



	2016年度		2017年度予想		
<b>携帯電話 合計</b>	<b>17.8 億台</b>	→	<b>17.4 億台</b>	<b>▲2%</b>	
2G/3G	6.8 億台	→	5.3 億台	<b>▲20%</b>	
LTE	11.0 億台	→	12.1 億台	<b>+10%</b>	
スマートフォン	15.6 億台	→	15.7 億台	<b>+1%</b>	

# 部品需要予測（通期／PC及び関連機器）



	2016年度		2017年度予想		
<b>PC</b>	<b>4.5 億台</b>	→	<b>4.3 億台</b>	<b>▲5%</b>	
デスクトップ	1.2 億台	→	1.1 億台	<b>▲5%～▲10%</b>	
ノートブック	1.6 億台	→	1.6 億台	<b>横這い</b>	
タブレット	1.7 億台	→	1.6 億台	<b>▲5%～▲10%</b>	

	2017年度 通期予想 (前年度比)	2017年度 下期予想 (上期比)
コンデンサ	+17%程度	+6%程度
圧電製品	▲5%程度	+5%程度
その他コンポーネント	+49%程度	+59%程度
通信モジュール	+19%程度	+18%程度
電源他モジュール	+7%程度	▲4%程度
製品売上高計	+20%	+20%

	2017年度 通期予想 (前年度比)	2017年度 下期予想 (上期比)
A V	+ 57%程度	横這い
通信	+ 13%程度	+ 19%程度
コンピュータ及び関連機器	+ 16%程度	+ 1%程度
カーエレクトロニクス	+ 16%程度	+ 13%程度
家電・その他	+ 58%程度	+ 55%程度
製品売上高計	+ 20%	+ 20%

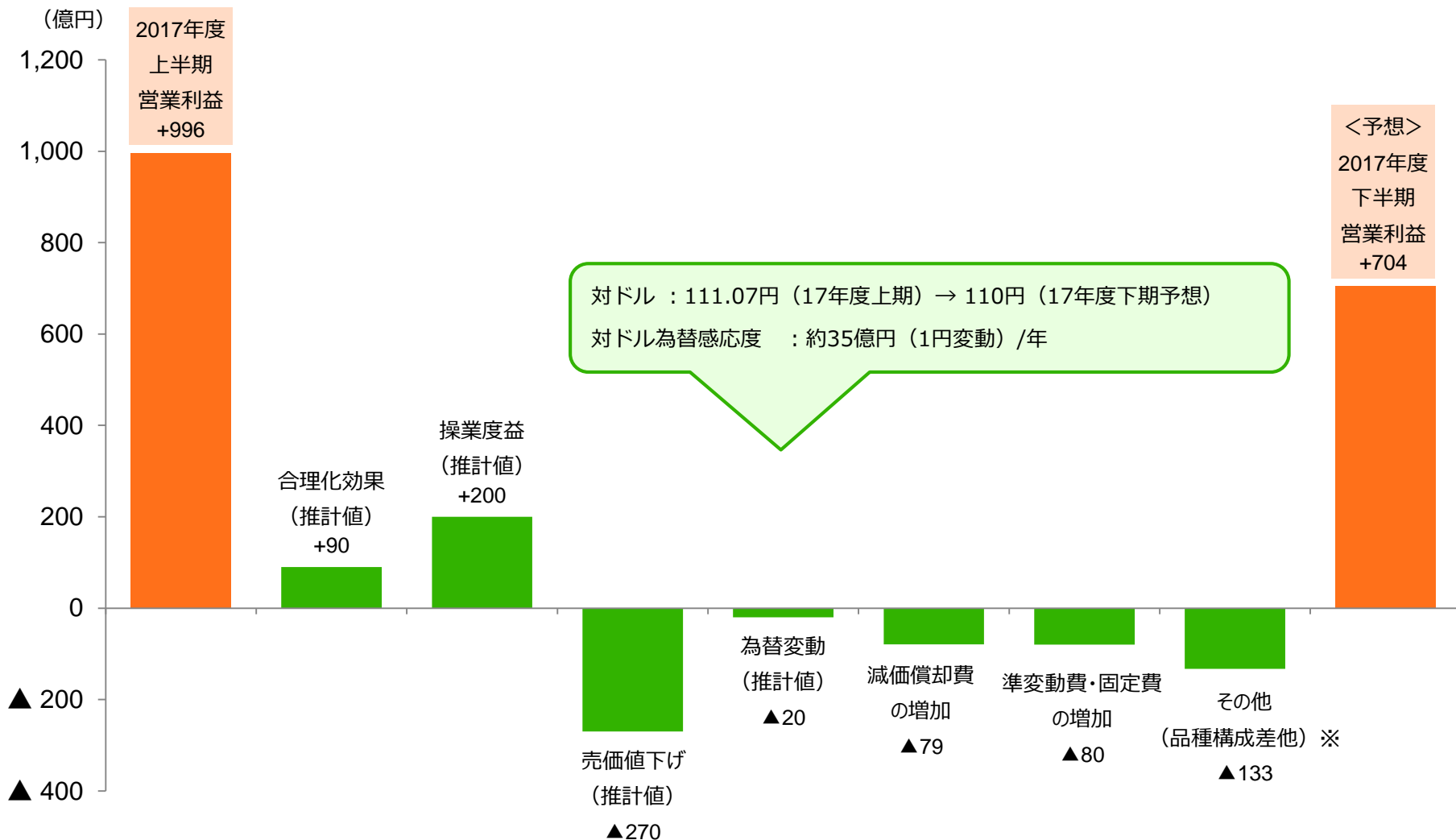
(注) 当社推計値に基づいております

# 2017年度 業績予想

	前回予想 (17年4月)			今回予想					
	上期予想	下期予想	2017年度 通期予想	上期実績		下期予想		2017年度 通期予想	
				(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
売上高	6,000	6,250	12,250	6,196	100.0	7,424	100.0	13,620	100.0
営業利益	1,080	1,180	2,260	996	16.1	704	9.5	1,700	12.5
税引前当期純利益	1,100	1,200	2,300	1,098	17.7	702	9.5	1,800	13.2
当社株主に帰属する 当期純利益	840	900	1,740	911	14.7	529	7.1	1,440	10.6
為替 (円/USD)	108.00			111.07		110.00		110.54	

# 利益変動要因

[2017年度上半期→2017年度下半期予想]



※ ソニー株式会社より譲渡された電池事業の利益変動要因はその他 (品種構成差他) にて表記

# 業績予想の前提

	2017年度 上期実績	2017年度 下期予想	2017年度 通期予想
減価償却費	605 億円	735 億円	1,340 億円
研究開発費	446 億円	474 億円	920 億円
設備投資額	1,328 億円	1,272 億円	2,600 億円
為替レート(USD)	111.07 円/USD	110.00 円/USD	
為替レート(EUR)	126.29 円/EUR	130.00 円/EUR	



2017年度（2018年3月期）の配当（予定）

1株当たり年間260円

（中間配当130円／期末配当130円）

※年間配当を前年度比40円増配

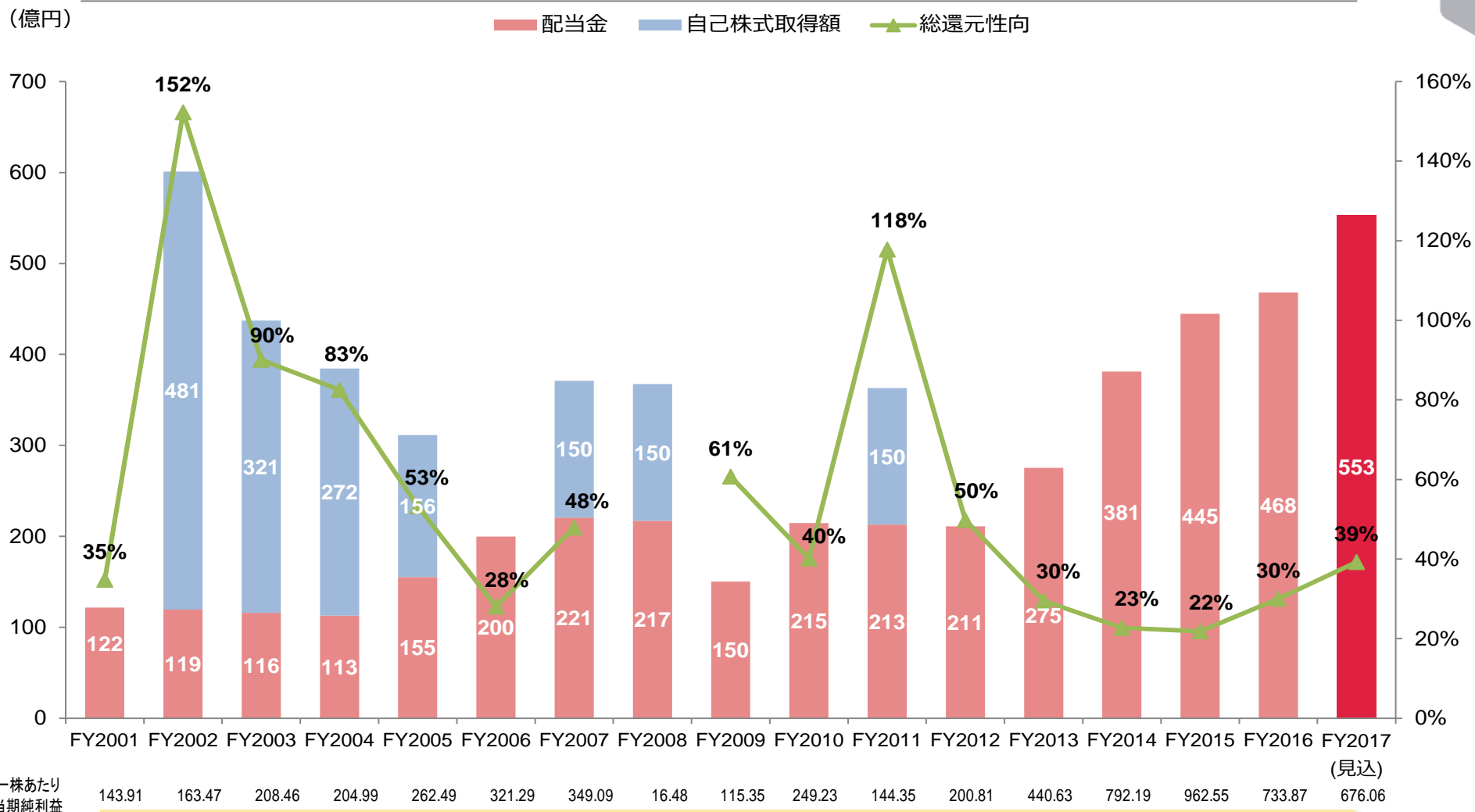
2016年度（2017年3月期）の配当

1株当たり年間220円

（中間配当110円／期末配当110円）

※当配当は現時点での事業環境予測及び業績予想に基づくものであります

# 株主還元推移



利益還元策としては、配当による配分を優先的に考え、  
1株当たり利益を増加させることにより配当の安定的な増加に努めます

当資料に記載されている、当社又は当社グループに関する見通し、計画、方針、戦略、予定、判断などのうち既に確定した事実でない記載は、将来の業績に関する見通しです。将来の業績の見通しは、現時点で入手可能な情報と合理的と判断する一定の前提に基づき当社グループが予測したものです。実際の業績は、さまざまなリスク要因や不確実な要素により業績見通しと大きく異なる可能性があり、これらの業績見通しに過度に依存しないようお願いいたします。また、新たな情報、将来の現象、その他の結果に関わらず、当社が業績見通しを常に見直すとは限りません。実際の業績に影響を与えるリスク要因や不確実な要素には、以下のものが含まれます。(1)当社の事業を取り巻く経済情勢、電子機器及び電子部品の市場動向、需給環境、価格変動、(2)原材料等の価格変動及び供給不足、(3)為替レートの変動、(4)変化の激しい電子部品市場の技術革新に対応できる新製品を安定的に提供し、顧客が満足できる製品やサービスを当社グループが設計、開発し続けていく能力、(5)当社グループが保有する金融資産の時価の変動、(6)各国における法規制、諸制度及び社会情勢などの当社グループの事業運営に係る環境の急激な変化、(7)偶発事象の発生、などです。ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

当資料に記載されている将来予想に関する記述についてこれらの内容を更新し公表する責任を負いません。

Thank you

